

**(品目別需給編)**

# 1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

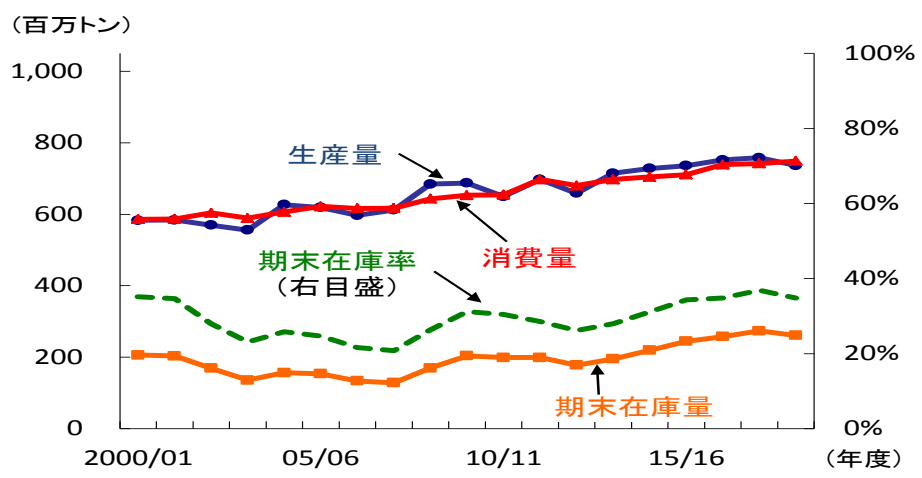
- ・ロシア、EU での乾燥天候による減産等から、前年度より減少する見込み。
- 前月に比べ、EU での乾燥天候による単収の低下等から下方修正された。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・ロシア等で減少も EU 等で増加し、前年度を上回り史上最高となる見込み。
- 前月に比べ、EU 等の生産減による輸出余力の低下から下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓



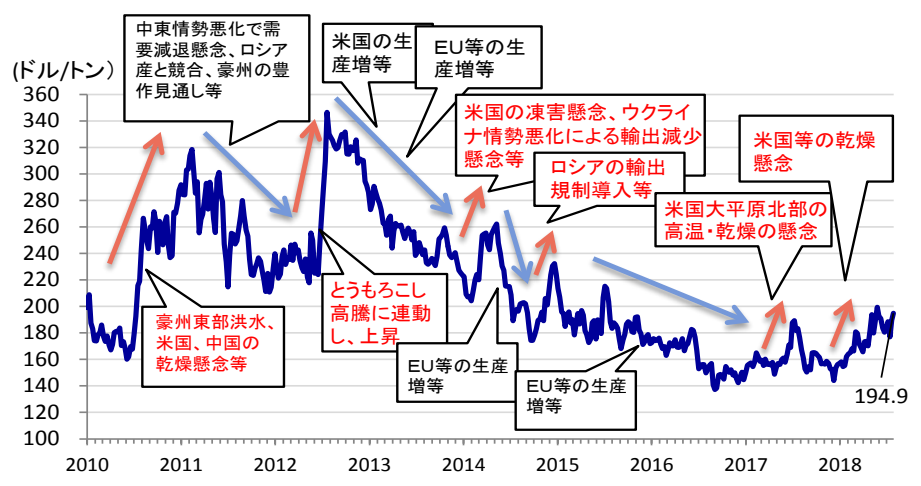
資料：USDA「PS&D」（2018. 7. 12）をもとに農林水産省で作成。

# ◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	752.0	757.9	736.3	▲ 8.4	▲ 2.9
消費量	738.9	741.8	748.9	▲ 2.0	1.0
うち飼料用	146.9	144.6	142.3	▲ 0.3	▲ 1.6
輸出量	183.2	181.9	185.5	▲ 1.9	2.0
輸入量	179.1	181.0	182.7	▲ 1.0	0.9
期末在庫量	257.3	273.5	260.9	▲ 5.3	▲ 4.6
期末在庫率	34.8%	36.9%	34.8%	▲ 0.6	▲ 2.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」 (12 July 2018)



注：シカゴ商品取引所による 2018 年 7 月 27 日までの毎週金曜日までの期近価格である。

(3) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】冬小麦は、7月下旬時点で、収穫進捗率が前年並みの80%となった。一方、春小麦は前年度より作付けが遅れていたが、例年並みに出穂がほぼ終了。

作付面積は、前年度より3.9%増の19.4百万ヘクタール。種類別には、冬小麦が0.1%、春小麦が19.9%の増加、デュラム小麦は18.2%の減少。

単収は、前年度より、冬小麦が4.3%低下、春小麦が27.0%、デュラム小麦が58.3%上昇と見込まれている。なお、春小麦の単収は、7月下旬に行われた業界団体による主要産地であるノースダコタ州北部でのサンプル調査結果が2.76トン/ヘクタールと、米国農務省の単収予測3.23トン/ヘクタールを下回っており、注視が必要。

生産量は、収穫面積の増加と単収の上昇により前年度より8.1%増加する見込みとなり、前月より上方修正された。そのうち、冬小麦は、主要生産州のカンザス州等での干ばつ等による減産から、32.5百万トンと前年度より6.1%減少。一方、春小麦は収穫面積の増加と良好な天候に恵まれ単収が上昇することから前年度より46.5%増の18.7百万トンの見込み。

【需要状況】国内需要は、31.5百万トンと前年度より増加。飼料用需要は、2017/18年度が下方修正されるとともに、2018/19年度は生産量の増加と小麦価格の低下により、前月より上方修正されたことから、前年度より160.3%増の3.5百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】ロシア、EU、豪州の輸出余力が生産減で減少するため、輸出量は26.5百万トンと前年度より増加する見込み。また、春小麦の生産増から主にカナダ西部からの輸入量が減少し、3.7百万トンとなる見込み。

冬・春別の小麦の生産量、収穫面積、単収の推移

	2017/18年度				2018/19年度			
	冬小麦	春小麦		全体	冬小麦	春小麦		全体
		デュラム小麦	春小麦 (デュラムを除く)			デュラム小麦	春小麦 (デュラムを除く)	
生産量 (百万トン)	34.6	1.49	11.33	47.38	32.46	2.04	16.71	51.21
作付面積 (百万ha)	13.23	0.93	4.46	18.62	13.25	0.76	5.34	19.35
収穫面積 (百万ha)	10.24	0.86	4.11	15.21	10.05	0.75	5.22	16.01
単収 (t/ha)	3.38	1.73	2.76	3.11	3.23	2.74	3.20	3.20

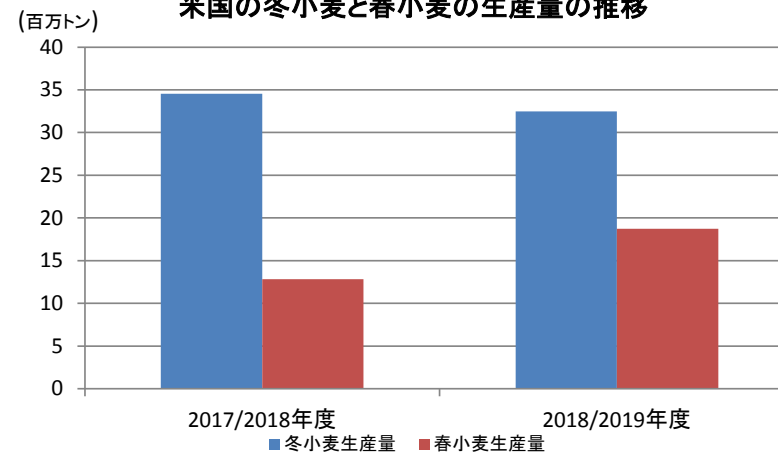
小麦－米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	51.2	1.5	8.1
消費量	31.9	29.3	31.5	0.3	7.4
うち飼料用	4.4	1.4	3.5	0.3	160.3
輸出量	28.6	24.5	26.5	0.7	8.2
輸入量	3.2	4.3	3.7	-	▲ 14.3
期末在庫量	32.1	30.0	26.8	1.1	▲ 10.5
期末在庫率	53.1%	55.6%	46.2%	1.1	▲ 9.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.75	15.21	16.01	0.25	5.3
単収(t/ha)	3.54	3.11	3.20	0.04	2.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)

米国の冬小麦と春小麦の生産量の推移



< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ西部の春小麦の作付けは6月上旬で終了。作付け後、乾燥により広範囲で土壌水分が不足したが、降雨により改善。また、気温は平年を上回り、発芽と初期生育が促された。7月に入り、主要産地のサスカチュワン州等の平原三州南部では再び乾燥型天候となり、降雨が必要な状態。

カナダ統計局(STATCAN)によると、小麦全体の作付面積は10.0百万ヘクタールと前年度より10.4%増加。そのうち、デュラム小麦は比較的高い価格水準から作付面積が増加した。

カナダ農務農産食品省(AAFC)によれば、生産量は小麦全体で前月より1.6%減の30.6百万トンに下方修正された。種類別には、デュラム小麦が作付面積の増加により、前月より7.0%増加し6.1百万トンに上方修正。また、デュラムを除く小麦は、前月より3.5%減少し24.5百万トンに下方修正された。

【貿易情報・その他】米国農務省(USDA)によれば、EU、ロシア等黒海諸国、豪州等での生産減による輸出余力の低下により、2018/19年度の輸出量は前年度より7.5%増の24.5百万トンとなる見込み。

< 豪州 >

【生育・生産状況】5月末には乾燥で遅れていた最大産地のウエスタンオーストラリア州で作付けがほぼ終了。その後、同州では降雨があり作柄は良好。一方、ニューサウスウェールズ州北部等では更なる降雨が必要。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)の6月予測では、作付面積が豪州全体で前年度より2%減となるものの、単収の上昇により、生産量は前年度より16.0%増の24.6百万トンの見込み。一方、米国農務省は乾燥天候から生産量を前月予測より2.0百万トン下方修正し22.0百万トンと見込んでおり、注視が必要である。

【貿易情報・その他】2018/19年度の輸出量は、生産量の下方修正と国内の飼料用需要の増加から前月予測より1.0百万トン下方修正され、16.0百万トン(前年度対比6.7%増)となる見込み。

小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、( )はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	32.1	30.0	32.5 (30.6)	-	8.3	
消費量	10.8	9.0	9.1 (8.7)	▲ 0.5	1.1	
うち飼料用	5.8	3.8	4.0 (4.2)	▲ 0.5	5.3	
輸 出 量	20.2	22.8	24.5 (22.3)	1.0	7.5	
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-	
期末在庫量	6.9	5.6	5.0 (5.8)	▲ 0.3	▲ 10.7	
期末在庫率	22.4%	17.6%	14.9% (18.7%)	▲ 1.1	▲ 2.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.98	9.00	9.70 (9.81)	▲ 0.07	7.8	
単収(t/ha)	3.58	3.33	3.35 (3.12)	0.02	0.6	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 July 2018)

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	31.8	21.3	22.0 (23.5)	▲ 2.0	3.3	
消費量	7.5	7.3	8.1 (6.9)	0.6	11.3	
うち飼料用	4.0	3.8	4.6 (3.5)	0.6	21.1	
輸 出 量	22.6	15.0	16.0 (16.8)	▲ 1.0	6.7	
輸 入 量	0.1	0.2	0.2 (0.2)	-	-	
期末在庫量	5.7	4.9	3.0 (4.9)	▲ 1.8	▲ 39.8	
期末在庫率	19.0%	22.0%	12.2% (20.7%)	▲ 7.1	▲ 9.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	12.00 (11.96)	▲ 0.20	▲ 2.0	
単収(t/ha)	2.61	1.74	1.83 (1.97)	▲ 0.14	5.2	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)  
IGC 「Grain Market Report」(2 July 2018)

< EU >

【生育・生産状況】スペインの生産量は、平均降雨量を上回る十分な降雨で単収が上昇し前月より上方修正されたものの、ドイツ、ポーランド等の生産量は、6月から続く北部ヨーロッパでの高温・降雨不足で土壌水分が減少した結果、単収が低下し下方修正された。フランスの生産量も、春期の降雨過多や赤かび病等で前月より下方修正された。

米国農務省(USDA)によれば、生産量は、北部ヨーロッパの乾燥等により前月より下方修正され 145.0 百万トン（対前年度 6.6 百万トン減）となる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2018/19年度の輸出量は、ドイツの生産減から前月より 1.5 百万トン下方修正され、27.5 百万トンの見込み。（P3「今月の注目情報」参照）

小麦-EU（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

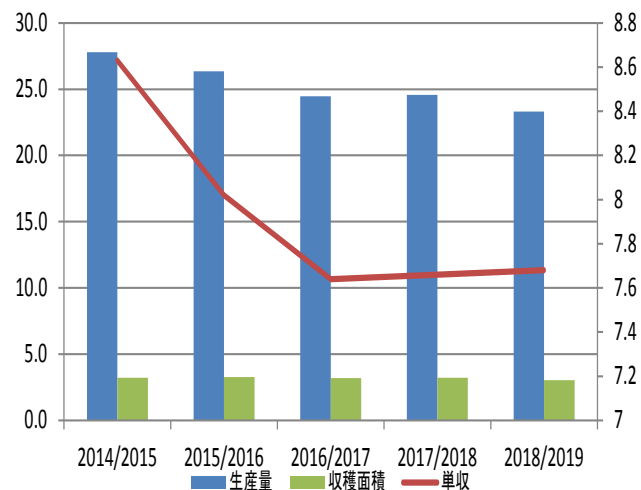
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.4	151.6	145.0 (146.4)	▲ 4.4	▲ 4.3
消費量	128.0	130.4	127.0 (128.1)	▲ 1.5	▲ 2.6
うち飼料用	56.0	58.0	54.5 (54.8)	▲ 1.5	▲ 6.0
輸 出 量	27.3	23.3	27.5 (28.2)	▲ 1.5	18.0
輸 入 量	5.3	5.6	5.5 (5.4)	-	▲ 1.8
期末在庫量	10.9	14.4	10.4 (16.5)	▲ 0.1	▲ 27.8
期末在庫率	7.0%	9.4%	6.7% (10.5%)	0.1	▲ 2.6

(参考)

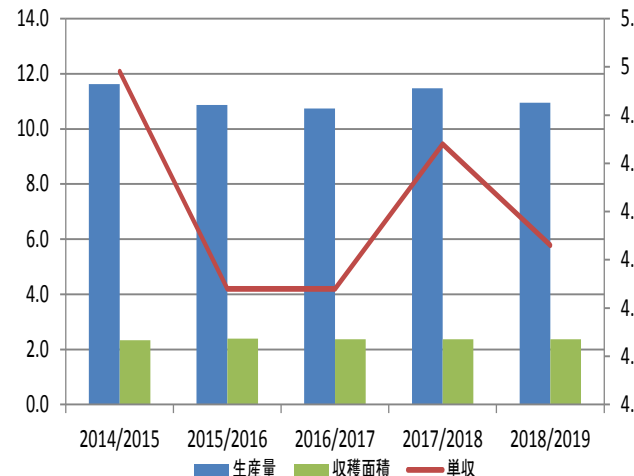
収穫面積(百万ha)	27.23	26.29	25.64 (25.49)	▲ 0.16	▲ 2.4
単収(t/ha)	5.34	5.77	5.66 (5.7)	▲ 0.13	▲ 1.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
USDA 「PS&D」 ((12 July 2018)  
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」 (28 June 2018)

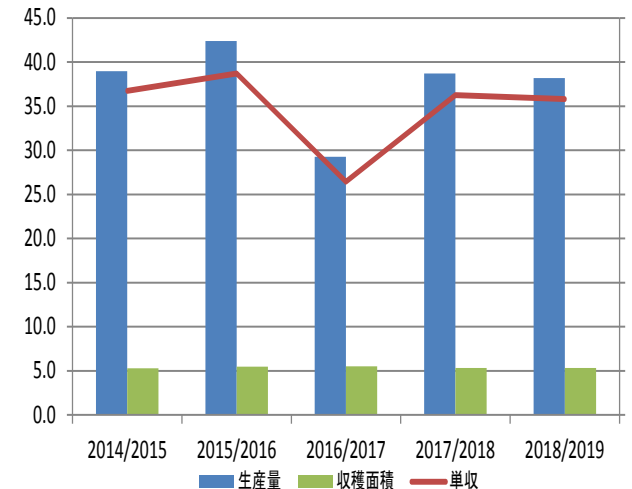
(百万トン)  
(百万ヘクタール) 最近5カ年のドイツ産小麦の生産量、収穫面積、単収 (t/ha)



(百万トン)  
(百万ヘクタール) 最近5カ年のポーランド産小麦の生産量、収穫面積、単収 (t/ha)



(百万トン)  
(百万ヘクタール) 最近5カ年のフランス産小麦の生産量、収穫面積、単収 (t/ha)



資料：International Grain Council (26 July 2018)のデータをもとに農林水産省で加工

< 中国 >

【生育・生産状況】6月に入り冬小麦の収穫が開始。主産地の華北平原では平年を上回る気温となり同月末までに収穫は終了した。一方、5月中旬に、華北平原のうち河南省、河北省等の一部では豪雨による倒伏等で単収、品質が低下したが、その後、同地域では、収穫期に降雨が続き、倒伏等のさらなる被害が生じた。

中国統計局によれば、2018/19年度の小麦生産量は前年度比2.4%減の128.4百万トンの見込み。減産の要因は落花生、綿花等への転作による作付面積の減少と湿潤型天候による作付けの遅れ、生育期の低温による単収の悪化である。

【貿易情報・その他】食の西洋化を背景にパン用等の高タンパク小麦粉用の小麦需要が増加しているため、輸入量が前年度に比べ0.5百万トン増加。輸入先は高品質小麦を生産する豪州、カナダ、米国等。

< ロシア >

【生育・生産状況】冬小麦は、6月には欧州地区を中心に多くの地域で高温により成熟が早く進み、例年より10日間ほど早く収穫が開始された。

収穫面積は昨年度とほぼ同面積を達成しながらも、単収は高温・乾燥により史上最高の前年度より17%低下する見込み。生産量は前月予測より2.5百万トン減少して48.5百万トン（対前年度12.5百万トン減）。

一方、春小麦は、播種作業は終了し、暖かな気温に恵まれ順調に生育している。収穫面積は、前月より0.5百万ヘクタール上方修正され11.5百万ヘクタール。生産量も、前月より1.0百万トン上方修正され18.5百万トン（対前年度5.5百万トン減）。

小麦全体の生産量は、高温・乾燥により前月予測より1.5百万トン下方修正され67.0百万トン（対前年度18.0百万トン減）の見込み。

【貿易情報・その他】2018/19年度、生産量は減少するものの潤沢な期首在庫から、引き続き、世界第1位の輸出国となる見込み。（P3「今月の注目情報」参照）

小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	128.9	129.8	128.0 (126.7)	▲ 1.0	▲ 1.4
消費量	118.5	117.0	122.0 (119.4)	2.0	4.3
うち飼料用	16.5	13.5	17.0 (14.0)	2.0	25.9
輸 出 量	0.8	1.0	1.2 (1.1)	-	20.0
輸 入 量	4.4	4.0	4.5 (3.8)	0.5	12.5
期末在庫量	111.1	126.8	136.1 (119.9)	▲ 2.5	7.3
期末在庫率	93.1%	107.5%	110.5% (99.5%)	▲ 3.9	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.19	23.99	23.70 (23.83)	▲ 0.20	▲ 1.2
単収(t/ha)	5.33	5.41	5.40 (5.32)	-	▲ 0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)、  
IGC 「Grain Market Report」(2 July 2018)

小麦—ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

（単位：百万トン）

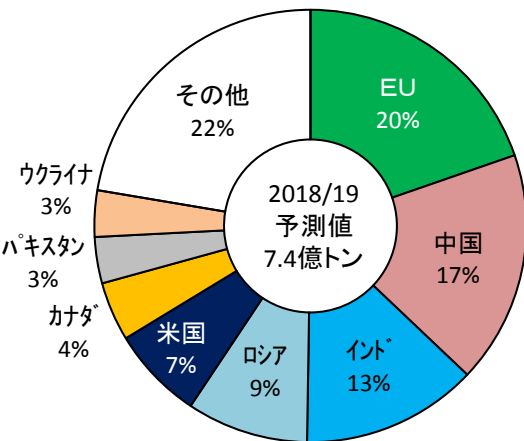
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.5	85.0	67.0 (70.9)	▲ 1.5	▲ 21.2
消費量	40.0	45.0	39.0 (41.3)	▲ 0.5	▲ 13.3
うち飼料用	17.0	21.5	17.0 (17.5)	-	▲ 20.9
輸 出 量	27.8	41.0	34.0 (33.7)	▲ 1.0	▲ 17.1
輸 入 量	0.5	0.4	0.6 (0.3)	0.1	50.0
期末在庫量	10.8	10.2	4.8 (12.8)	▲ 0.4	▲ 52.8
期末在庫率	16.0%	11.9%	6.6% (17.1%)	▲ 0.4	▲ 5.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	25.50 (26.10)	0.50	▲ 6.7
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.63 (2.72)	▲ 0.11	▲ 15.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)、  
IGC 「Grain Market Report」(2 July 2018)

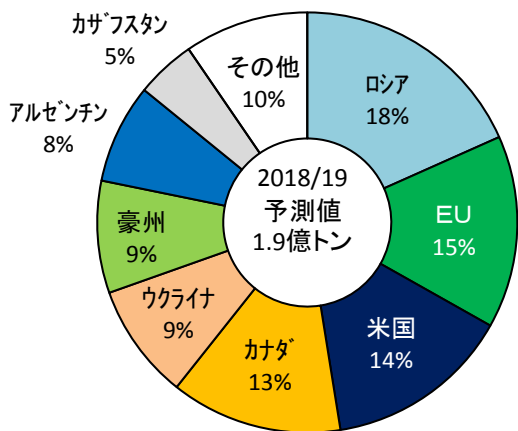


# 資料 世界の小麦生産量と輸出量/日本の輸入量(2018年7月現在)

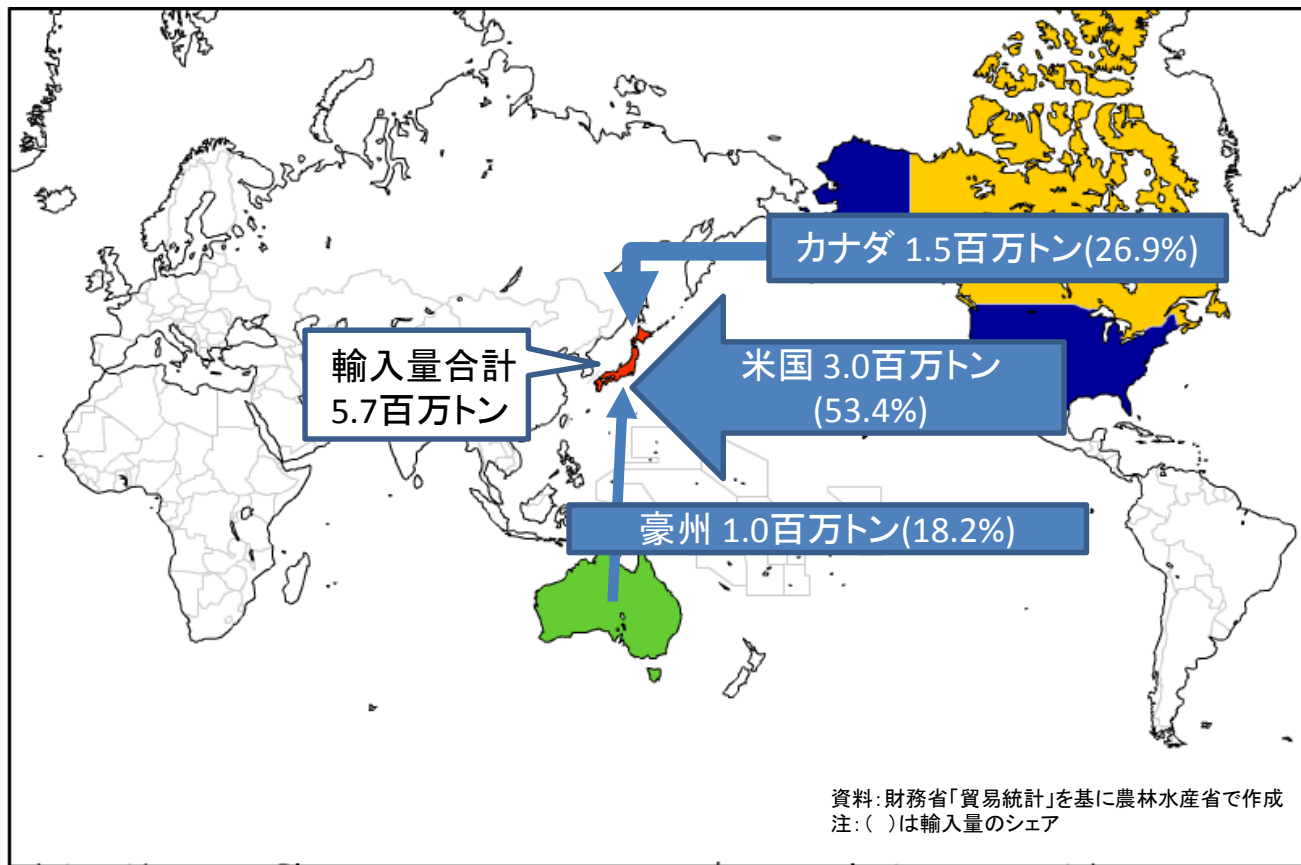
## 世界の小麦生産量



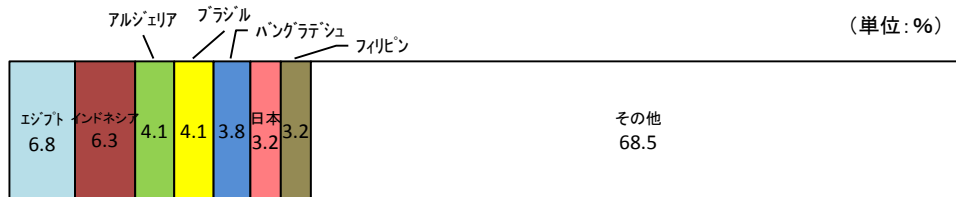
## 世界の小麦輸出量



## 日本の国別小麦輸入量(2017年)



### <参考>世界の小麦輸入国 (2018/19) —世界の輸入量の3割を上位7カ国が占める—



日本の小麦生産量  
 2015年: 1.00百万トン  
 2016年: 0.79百万トン  
 2017年: 0.91百万トン  
 (資料: 農林水産統計)

## 2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、米国での収穫面積の増加により上方修正された。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、中国、米国での飼料需要の増加により上方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

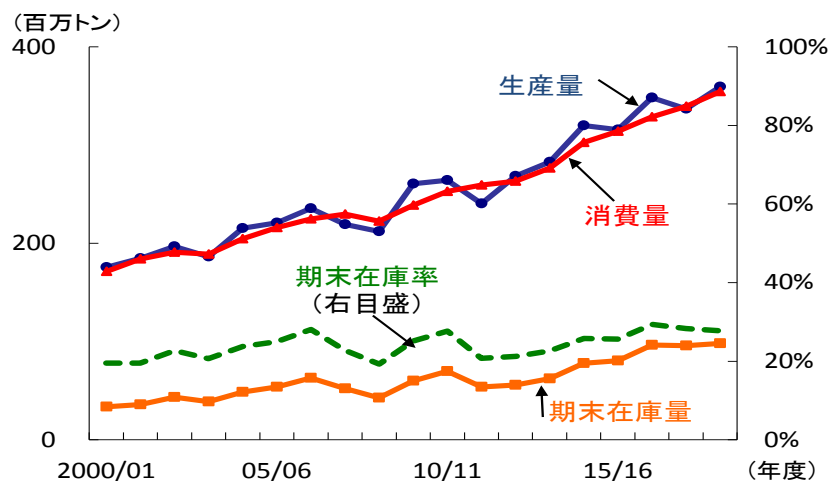
・前月に比べ、米国での生産増加による輸出余力の増加により上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

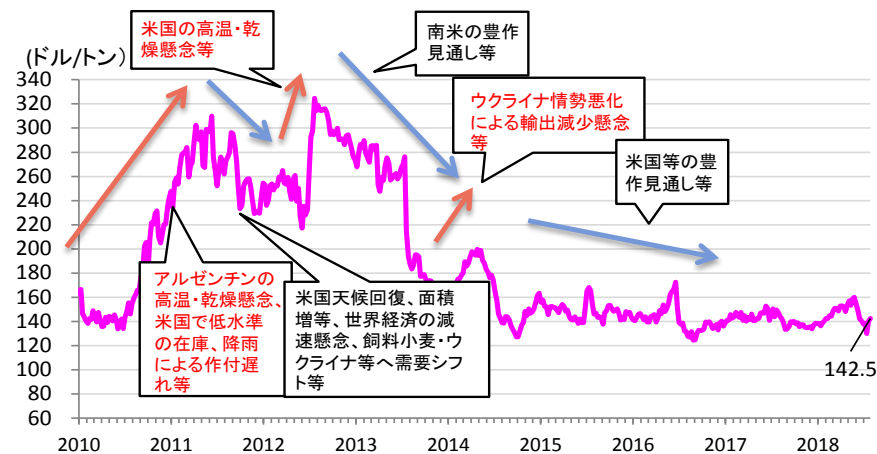
(単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,078.5	1,033.7	1,054.3	1.9	1.9
消費量	1,060.8	1,069.7	1,094.1	3.7	2.1
うち飼料用	633.3	649.4	666.7	3.6	2.6
輸出量	159.9	150.5	157.8	1.8	4.6
期末在庫量	227.7	191.7	152.0	▲ 2.7	▲ 18.3
期末在庫率	21.5%	17.9%	13.9%	▲ 0.3	▲ 4.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 July 2018)



資料: USDA 「PS&D」 (2018. 7. 12) をもとに農林水産省で作成。



注: シカゴ商品取引所による 2018 年 7 月 27 日までの毎週金曜日の期近価格である。



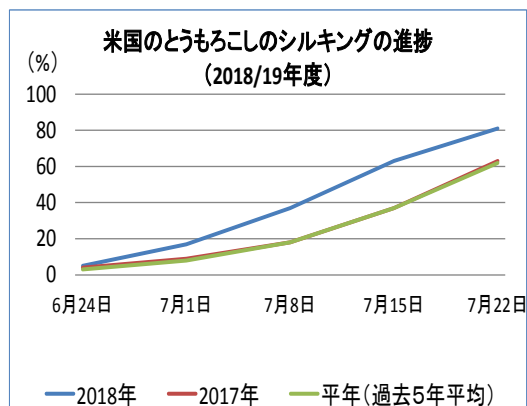
(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

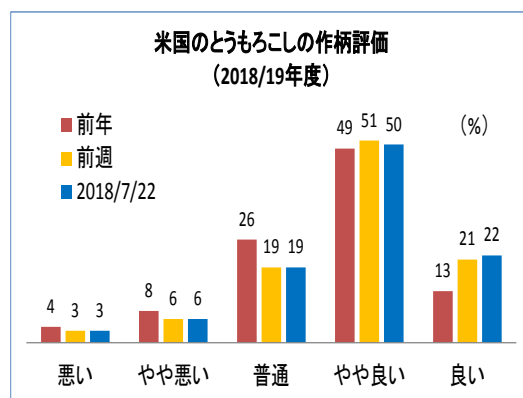
【生育・生産状況】作付面積の拡大により、前月より生産量は 1.3%上方修正され、361.5 百万トンの見込み。7月 22 日時点で、主要産地の 81%は、シルキング（種実部の先端からめしべとなる細く長い毛を出すことで、受粉の準備をすること）を迎えており、例年を上回っている。生育状況（良い、やや良いを足したもの）についても、前年度よりも良好である。

【需要状況】消費量は、前月よりエタノール用需要等が下方修正されたものの、豚の飼育頭数の増加から、飼料用需要が前月より上方修正されたことにより、全体では上方修正された。

【貿易情報・その他】輸出量は、5 月以降堅調で、米国農務省（USDA）予測では、アルゼンチン、ブラジル等の輸出国の輸出競争力の低下により、前月より上方修正され、56.5 百万トンの見込み。



資料：USDA Crop progress 2018.07.22



とうもろこしー米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	384.8	371.0	361.5	4.8	▲ 2.6
消費量	313.8	317.8	318.3	0.4	0.2
うち飼料用	139.0	138.4	137.8	1.9	▲ 0.5
エタノール用等	138.0	142.2	142.9	▲ 1.3	0.4
輸 出 量	58.3	61.0	56.5	3.2	▲ 7.3
輸 入 量	1.5	1.0	1.3	-	24.5
期末在庫量	58.3	51.5	39.4	▲ 0.6	▲ 23.4
期末在庫率	15.7%	13.6%	10.5%	▲ 0.3	▲ 3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.11	33.47	33.09	0.43	▲ 1.1
単収(t/ha)	10.96	11.08	10.92	-	▲ 1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	41.0	33.0	41.0 (48.3)	-	24.2
消費量	11.2	10.8	12.0 (20.1)	-	11.1
うち飼料用	7.5	7.0	8.0 (15.5)	-	14.3
輸 出 量	26.0	24.0	27.0 (29.0)	-	12.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	5.3	3.5	5.5 (5.8)	-	57.3
期末在庫率	14.2%	10.0%	14.1% (8.6%)	-	4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.90	5.10	5.00 (6.45)	-	▲ 2.0
単収(t/ha)	8.37	6.47	8.20 (7.49)	-	26.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)  
IGC「Grain Market Report」(2 July 2018)

< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社（CONAB）によると、2017/18年度の作付面積は前年度と比較して5.1%減少し、生産量も減少の見込み。特に7月に収穫が終了した冬とうもろこしは、乾燥天候により、生産量が前年度と比較して16.9%減少しており、地域的には、主産地である南部の減少率が高い。

【需要状況】CONABによると、2017/18年度の実産量は前年度比で低下するが、主に鶏・豚用向け飼料が中心に伸びており、消費量は同じ水準を維持する見通し。

【貿易情報・その他】2017/18年度の冬とうもろこし生産量が減少していることから、需給がタイトとなり、輸出力は減少傾向にある。一方、輸入については、飼料不足となった一部地域において、隣国パラグアイからの輸入を行っている。

< 中国 >

【生育・生産状況】天候に恵まれ、主産地における生育状況は、平年より良好であり、開花・シルキングが進んでいる。

【需要状況】国家備蓄とうもろこしの競売が続いていることから、国内価格は下落。この競売により売却されたとうもろこしの出荷は、6月下旬から8月にかけて行われる見込み。国家糧油情報センターによる飼用穀物需給予測によると、2018年の播種面積は、35百万ヘクタールと前年度比1.3%減で、生産量は、213.7百万トンと前年度比1.0%減。一方、消費量は、258.03百万トンと前年度比6.2%増の見込みである。USDA等の予測においても、消費量が生産量を大きく上回ると予測されており、期末在庫の減少につながるとみられる。

とうもろこし—ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)  
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	98.5	83.5	96.0 (93.8)	-	15.0
消費量	60.5	63.0	65.5 (65.0)	-	4.0
うち飼料用	51.0	53.5	55.0 (52.0)	-	2.8
輸 出 量	31.6	26.0	31.0 (31.0)	-	19.2
輸 入 量	0.9	0.5	0.7 (0.5)	-	40.0
期末在庫量	14.0	9.0	9.2 (5.5)	0.5	2.2
期末在庫率	15.2%	10.1%	9.6% (5.7%)	0.6	▲ 0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.60	16.80	17.70 (17.00)	-	5.4
単収(t/ha)	5.60	4.97	5.42 (5.52)	-	9.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (12 July 2018)  
IGC 「Grain Market Report」 (2 July 2018)

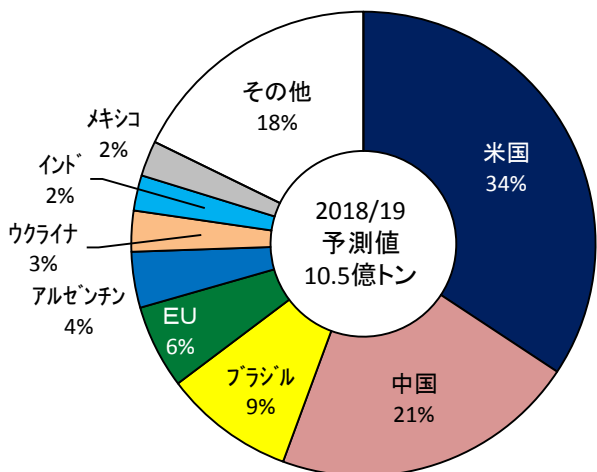
とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

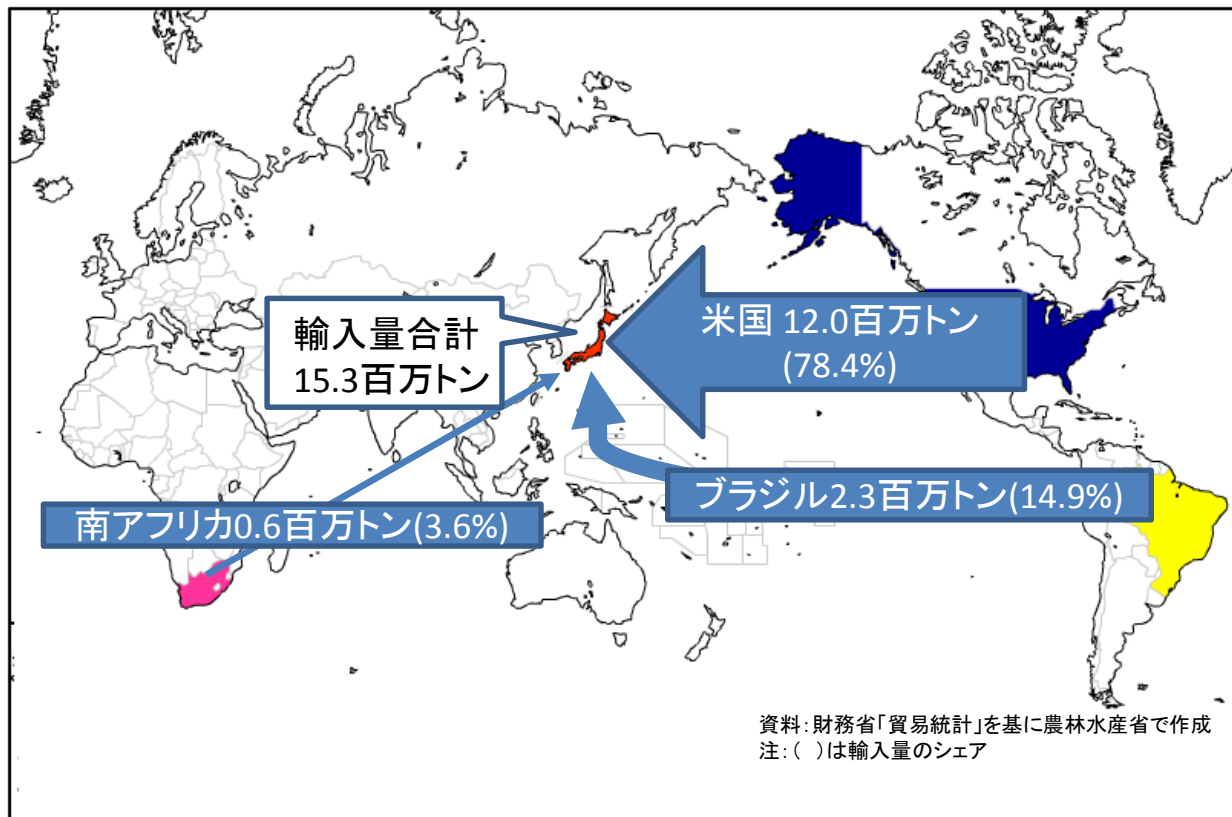
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	219.6	215.9	225.0 (220.8)	-	4.2
消費量	232.0	241.0	251.0 (246.2)	2.0	4.1
うち飼料用	162.0	167.0	174.0 (152.0)	2.0	4.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.2)	-	-
輸 入 量	2.5	4.0	5.0 (3.0)	-	25.0
期末在庫量	100.7	79.6	58.5 (166.1)	▲ 2.0	▲ 26.5
期末在庫率	43.4%	33.0%	23.3% (67.4%)	▲ 1.0	▲ 9.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.77	35.47	36.50 (35.70)	-	2.9
単収(t/ha)	5.97	6.09	6.16 (6.19)	-	1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (12 July 2018)  
IGC 「Grain Market Report」 (2 July 2018)

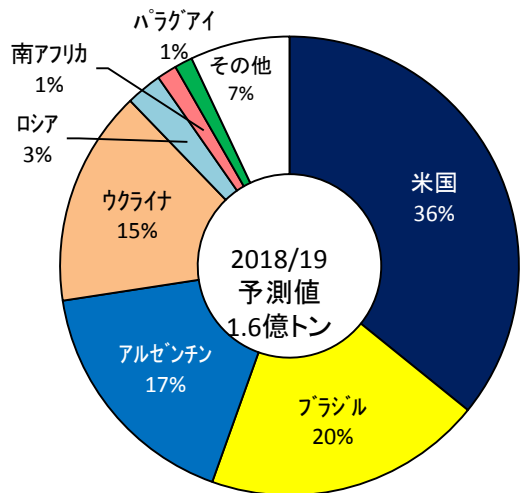
世界のとうもろこし生産量



日本の国別とうもろこし輸入量(2017年)

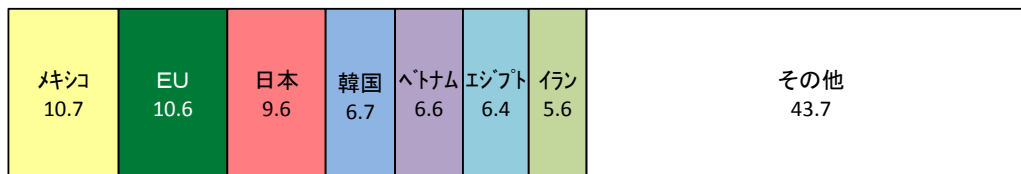


世界のとうもろこし輸出量



<参考>世界のとうもろこし輸入国(2018/19)  
—日本は世界第3位のとうもろこし輸入国—

(単位: %)



### 3 米

(1) 国際的な米需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・前月に比べ、ベトナムの単収の向上や米国の収穫面積の増加により上方修正された。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月に比べ、インドの下方修正等から世界全体も下方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

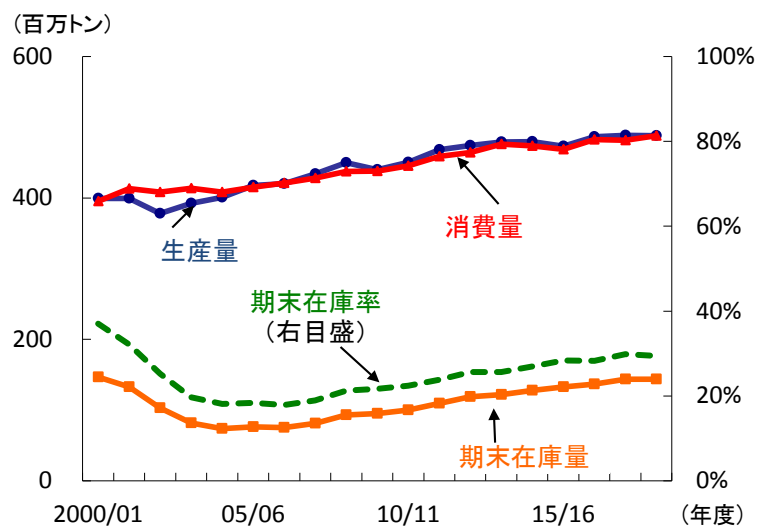
・前月に比べ、インドの下方修正等から世界全体も下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↑

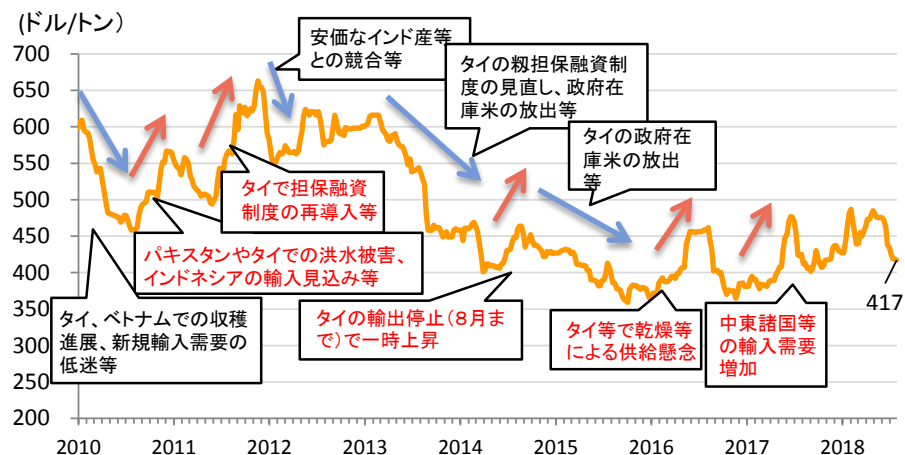
(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	486.7	488.6	487.8	0.4	▲ 0.2
消 費 量	482.7	481.5	487.9	▲ 0.1	1.3
輸 出 量	47.2	48.3	49.2	▲ 0.1	1.8
輸 入 量	41.3	48.2	46.4	▲ 0.2	▲ 3.6
期末在庫量	136.8	143.9	143.8	0.6	▲ 0.1
期末在庫率	28.3%	29.9%	29.5%	0.1	▲ 0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)



資料：USDA 「PS&D」(2018.7.12)をもとに農林水産省にて作成



注：タイ国家貿易取引委員会公表による2018年7月25日までの毎週水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生育・生産動向】米国農務省（USDA）によれば、7月22日時点で、長粒種の主産地のルイジアナ州では88%、中・短粒種の主産地のカリフォルニア州で13%、全米6州平均で46%が出穂段階を迎えており、ほぼ平年並である。

生育状況は作柄調査の「やや良い」と「良い」の合計がルイジアナで79%、カリフォルニアで90%と良好である。

長粒種、中・短粒種とも前月と比較して作付面積の増加から、生産量は上方修正され、前年度と比較して19.4%増加する見込み。

【需要状況】6月の在庫調査を反映して、2017/18年度及び2018/19年度の消費量それぞれ上方修正された結果、2018/19年度の消費量は前年度比で1.0%減に転じることとなった。

【貿易情報・その他】

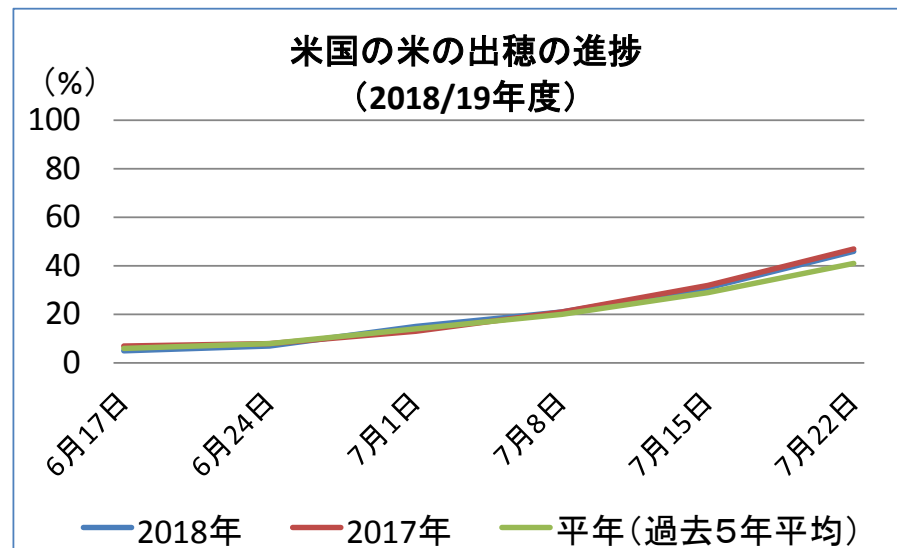
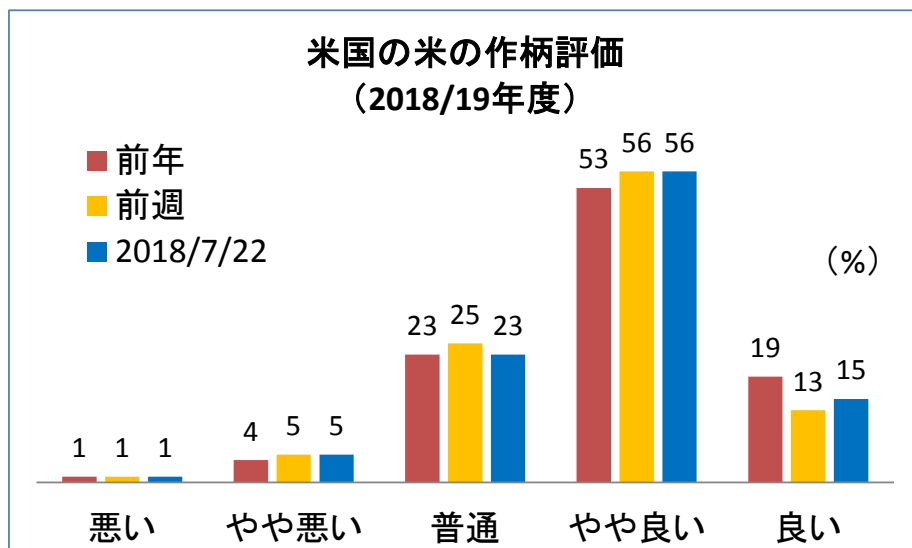
輸出量は、前月と比べ、消費量が上方修正されたことから、わずかに下方修正された。

米－米国(主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ沿いで栽培)

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.7	6.8	0.3	19.4
消費量	4.2	4.1	4.1	0.1	▲ 1.0
輸出量	3.7	2.9	3.2	▲ 0.03	13.3
輸入量	0.8	0.9	0.9	-	-
期末在庫量	1.5	1.0	1.3	0.02	30.1
期末在庫率	18.5%	14.8%	18.4%	▲ 0.0	3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.13	0.05	17.7
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.52	▲ 0.01	1.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)



資料：USDA「Crop Progress」(2018.7.23)をもとに農林水産省で作成。

< タイ >

【生育・生産動向】タイの米生産は、主に夏期に栽培される雨季作と、冬期に栽培される乾季作に分かれている。

6月以降、2018/19年度の雨期米の作付けが開始された。タイ政府の予測によれば、今年の1～5月までの雨量が多かったことから、単収が増加し、前年同期より7%増の25.81百万トン(粳ベース)の見通し。但し、6月以降の雨量不足が懸念材料。

一方、現在、収穫を行っている2017/18年度の乾期米については、タイ政府によれば、貯水量が潤沢であったこと等から、前月の報告よりさらに増加し、作付面積が2.05百万ヘクタール、生産量は8.55百万トン(粳ベース)となる見込み。

【需要状況】消費量は、前年度より減少の見込み。

【貿易情報・その他】7月の国内卸売価格は、6月と比べて5～8%下落している。USDAによれば、タイ政府が、7月11日、2011/12年度～2012/13年度に担保融資制度で積み増しされた2百万トンの備蓄米の放出を公表したことが要因とされている。

< 中国 >

【生育・生産動向】生育状況は、7月初旬では、一期作稲は、東北地区は分けつ期、四川、雲南省の一部では出穂期を迎えている。一方、二期作早稲については登熟期から成熟期、二期作晩稲については出苗を終えたところである。東北地区の一部を除き、土壌水分の水準は概ね良好である。

【貿易情報・その他】輸入については、世界一位の550万トンを維持する見込み。

国内価格は、夏期を迎え消費が減退し、市場での売買が低調なため、下落基調で推移している。

なお、6月の上海協力機構サミットの関連会合で、中国は、インド産非バスマティ米の輸入に向けた協定に合意した。

米－タイ(米生産は、夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる)

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	19.2	20.4	21.2 (21.3)	-	4.1	
消費量	12.0	11.2	10.2 (10.8)	-	▲ 8.7	
輸 出 量	11.6	10.5	11.0 (10.7)	-	4.8	
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.2	3.2	3.4 (3.7)	-	7.8	
期末在庫率	18.0%	14.7%	16.2% (17.2%)	-	1.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	11.14 (11.20)	-	4.3	
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.88 (1.90)	-	▲ 0.3	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)  
IGC 「Grain Market Report (2 July 2018)」 (単収は精米t/ha)

米－中国(北部で一期作、南部で二期作で行われる)

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	145.0	146.0	142.2 (141.8)	-	▲ 2.6	
消費量	141.5	142.7	144.0 (146.0)	-	0.9	
輸 出 量	0.8	1.3	1.7 (1.7)	-	30.8	
輸 入 量	5.3	5.5	5.5 (4.8)	-	0.0	
期末在庫量	86.5	94.0	96.0 (72.6)	-	2.1	
期末在庫率	60.8%	65.3%	65.9% (49.2%)	-	0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	30.18	30.18	29.50 (29.45)	-	▲ 2.3	
単収(もみt/ha)	6.86	6.91	6.89 (4.81)	-	▲ 0.3	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2018)  
IGC 「Grain Market Report (2 July 2018)」 (単収は精米t/ha)



< インド >

【生育・生産動向】2017/18年度のラビ米の収穫は概ね終了しており、2018/19年度のカリフ米の作付けが開始。作付けに必要なモンスーンは例年より2週間ほど早期に到来し、現時点で生育は概ね順調であるが、一部で降雨量が少ない状況であり、今後、注視が必要である。

一方、USDAによれば、2018/19年度は、単収の低下により、生産量は前年度よりわずかに減少する見込み。

【需要状況】消費量は、今月、下方修正されたが、前年度よりわずかに増加する見込みは変わらず。

【貿易情報・その他】輸出量は前月と比べて下方修正されるも、世界1位を維持する見込み。中国向け輸出については、中国の項(P13)を参照。

< ベトナム >

【生育・生産動向】ベトナム全土における2017/18年度の冬春作の作付面積は、前年度より0.4%減の3.10百万ヘクタールと減少も、単収は、前年度より0.39トン／ヘクタール増加の6.62トン／ヘクタール、総収穫量は前年度比1.1百万トン増加の20.5百万トン（もみベース）に達する見込み。

また、主にメコンデルタで栽培されている夏秋作は、発芽から田植えの時期にかけて天候が良好であったことから、生育状況は良好である。

一方、USDAによれば、前月と比べ、ベトナム政府のメコンデルタ地域の冬春作の高単収見通しを反映し、2018/19年度の生産量は上方修正され、史上最高の見込み。

【需要状況】消費量は、前年度より増加する見込み。

【貿易情報・その他】農業農村開発省発表の統計データによると、この半年間におけるベトナムの米の輸出高は前年度同期比42%増加の18.1億米ドル、輸出量は前年度同期比25%増加の3.56百万トンとなった。近年は、ジャポニカ米の輸出も開始され、最近では、韓国向け6万トンの輸出契約が結ばれたと報じられている（この契約における輸出単価は約700ドル/トンと、ベトナムの米輸出史上、過去最高と見られる）。

米ーインド（雨季のカリフ作と乾季のラビ作で行われる）

（単位：百万精米トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.7	110.0	109.0 (113.0)	-	▲ 0.9
消費量	95.8	97.4	98.0 (101.0)	▲ 0.2	0.7
輸出量	11.8	12.8	12.5 (12.3)	▲ 0.5	▲ 2.3
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	20.4	18.9 (18.2)	0.9	▲ 7.4
期末在庫率	19.1%	18.5%	17.1% (16.1%)	0.9	▲ 1.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.99	42.90	43.50 (44.00)	-	1.4
単収(もみt/ha)	3.74	3.85	3.76 (2.57)	-	▲ 2.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 July 2018)

IGC「Grain Market Report (2 July 2018)」(単収は精米t/ha)

米ーベトナム（北部で二期作、南部で二期作、三期作）

（単位：百万精米トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.4	28.9	29.1 (28.6)	0.4	0.4
消費量	22.0	22.1	22.4 (22.8)	0.2	1.4
輸出量	6.5	7.0	7.0 (6.7)	0.2	-
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.2	1.3 (1.4)	0.1	5.8
期末在庫率	3.4%	4.2%	4.4% (4.7%)	0.1	0.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.71	7.76	7.76 (7.80)	-	-
単収(もみt/ha)	5.68	5.97	5.99 (3.67)	0.08	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 July 2018)

IGC「Grain Market Report (2 July 2018)」(単収は精米t/ha)



(参考) 小麦、とうもろこし、大豆と比べた米の国際貿易上の特徴について

- ・小麦は、世界の多くの国で生産が行われ、輸出国も多く、生産量のうち 25.2%が貿易に向けられる。  
とうもろこしは、貿易比率は 15.0%であるが、主要輸出国が米国、ブラジル等寡占化（上位 3 位国シェア 72.6%）。
- 大豆は、貿易比率は 40%を越え、輸出、輸入とも寡占化傾向がさらに強い（輸出：上位 3 位国シェア 88.1%、輸入：中国のシェア 6 割以上）。主要生産国・貿易国の間で通商摩擦が起きると国際需給や相場に影響が出やすくなる。
- ・一方、米については、アジアの主要生産国が主要消費国となっており、貿易比率は 10.1%と少ない。東南アジア諸国からの輸出が全体の半分近くを占める

表 主な穀物、油糧種子の生産量、輸出量、貿易比率

	生産量 (億トン)	輸出量 (億トン)	貿易比率 (%)	主要生産国(上位3位)	シェア (%)	主要輸出国(上位3位)	シェア (%)	主要輸入国
	ア	イ	ウ=イ/ア					
小麦	7.4	1.9	25.2	EU、中国、インド*	50.3	ロシア、EU、米国	47.5	エジプト、インドネシア、ブラジル
とうもろこし	10.5	1.6	15.0	米国、中国、ブラジル	64.7	米国、ブラジル、アルゼンチン	72.6	メキシコ、EU、日本
大豆	3.6	1.6	43.8	ブラジル、 <b>米国</b> 、アルゼンチン	82.0	ブラジル、 <b>米国</b> 、アルゼンチン	88.1	<b>中国</b>
米	<b>4.9</b>	<b>0.5</b>	<b>10.1</b>	<b>中国</b> 、インド、インドネシア	<b>59.1</b>	<b>インド*</b> 、 <b>タイ</b> 、 <b>ベトナム</b>	<b>62.0</b>	<b>中国</b> 、 <b>ナイジェリア</b> 、EU

図-1  
世界の米  
の生産量

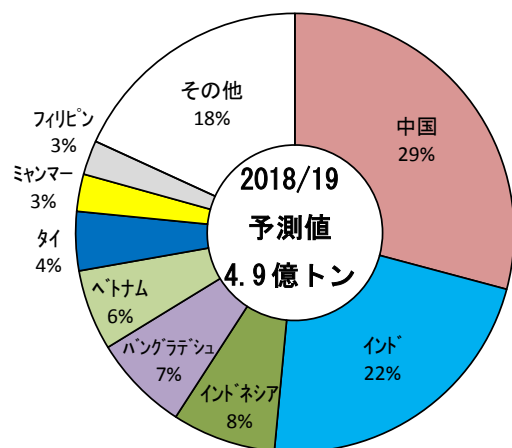
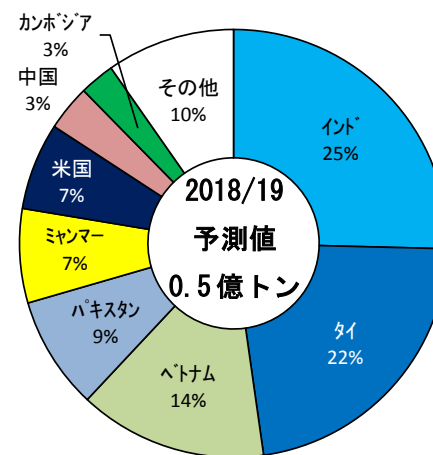


図-2  
世界の米  
の輸出量



注：小麦、とうもろこし、大豆の  
主要生産国・輸出国のグラフは、  
それぞれ、各品目の項参照。

資料：USDA「PS&D」（2018年7月）  
をもとに農林水産省で作成